

マカバイ記上

新共同訳

- 01 マケドニアのフィリポスの子アレキサンドロスはキッテムの地から兵を挙げ、ペルシアとメディアの王ダレイオスを粉砕し、彼に代わってまずヘラス地方に覇を 確立した。
- 02 アレキサンドロスは更に戦いを重ね、岩を落とし、各地の王の首をはね、
- 03 地の果てまで突き進んで多くの民族の間で略奪を働いた。全地は彼の前に沈黙し、彼の心はおごり高ぶった。
- 04 途方もなく強大な軍を組織して、諸国、諸民族、支配者たちに君臨し、彼らに貢を強要した。
- 05 だが、やがてアレキサンドロスは病床に伏す身となった。彼は死期を悟ると、
- 06 幼少のときから共に育てられた腹心の部将たちを呼び寄せ、息のあるうちに王国を彼らに分与した。
- 07 こうしてアレキサンドロスは十二年の統治の後に死に、
- 08 かの部将たちはそれぞれ、分与された地で権力を振るうことになった。
- 09 すなわち、部将たちは彼の死後、皆王冠をいただき、その子孫が多年にわたり跡を継ぎ、地には悪がはびこることとなった。
- 10 そしてついには彼らの中から悪の元凶、アンティオコス・エピファネスが現れた。彼はアンティオコス王の王子でローマに人質として送られていたが、ギリシア 人の王朝の第百三十七年に王として即位した。
- 11 この間、イスラエルには律法に背く者どもが現れ、「周囲の異邦人と手を結ぼう。彼らと関係を断ってから万事につけ悪いことばかりだから」と、多くの者に説いて回っていた。
- 12 人々の目にはこれは得策だと映ったので、
- 13 民の中のある者たちは進んで王のもとに出かけて行き、異邦人の慣習を採用する許可を受けた。
- 14 こうして彼らは異邦人の流儀に従ってエルサレムに錬成場を建て、
- 15 割礼の跡を消し、聖なる契約を離れ、異邦人と軛を共にし、悪にその身を引き渡した。
- 16 アンティオコスは自国シリアに対する支配権が固まったと見ると、エジプトの地を征服して、二つの王国を支配しようと企てた。
- 17 戦車と象を持つ大部隊と大艦隊を率いてエジプトに攻め入り、
- 18 エジプト王プトレマイオスに対して戦いを挑んだ。プトレマイオスは背を向けてアンティオコスの前から逃げ出し、多くの者が傷つき倒れた。
- 19 アンティオコス軍はエジプトの地にある要塞都市を次々に攻め落とし、その地で略奪をほしいままにした。
- 20 こうしてエジプトを打ち破った彼は、第百四十三年、矛先をイスラエルに転じて大軍と共にエルサレムを目指して上って来た。
- 21 アンティオコスは不遜にも聖所に入り込み、金の祭壇、燭台とその付属品一切、
- 22 供えのパンの机、ぶどう酒の献げ物用の壺と杯、金の香炉、垂れ幕、冠を奪い、神殿の正面を飾る金の装飾をすべてはぎ取った。
- 23 更に金や銀や貴重な祭具類、隠されていた宝をも見つけ出して奪い取った。
- 24 そしてすべてを略奪すると故国に帰った。彼は人々を殺戮し、高言を吐き続けていた。
- 25 イスラエルの全地に、大いなる悲しみがあふれ

26 指導者、長老らは苦悶の声をあげ 年若き男女はやつれ果て 女たちの美しさは色あせ
27 花婿は皆、哀歌を口にし 花嫁は婚姻の床で悲嘆に暮れた。
28 大地もその地に住む者を悼んで揺れ動き ヤコブの全家は恥辱を身にまとった。
29 二年の後アンティオコス王は、徴税官をユダの町々に派遣した。王は大軍を率いてエルサレムにまで来たが、
30 言葉巧みに穏やかな調子で語ったので、住民は彼を信頼した。すると彼は突如としてこの都を襲い、破壊をほしいままにし、多くのイスラエル人を殺した。
31 そして略奪をしたうえで都に火を放ち、家々や都を囲む城壁を破壊した。
32 女、子供は捕らえられ、家畜もまた奪われた。
33 その後、彼らはダビデの町に幾つもの堅固な塔を備えた巨大で強固な城壁を巡らして、要塞を築いた。
34 彼らはそこに罪深い異邦人と律法に背く者どもを配置し、要塞内での勢力を強めた。
35 彼らはここに、武器や糧食を蓄え、エルサレムで奪った戦利品を集めて積み上げ、ユダヤ人にとっての大いなる罠となった。
36 要塞は、聖所に対する罠となり、イスラエルに対する邪悪な敵となった。
37 彼らは聖所の周りに罪なき者の血を流し 聖所を汚した。
38 エルサレムの住民は、彼らを恐れて逃げ去り、エルサレムは他国人の住みかとなった。都に生まれた者たちには、異郷の地となり、都の子らは、その地を捨てた。
39 聖所は、荒れ野のごとく荒れ果て 祭りの日々は、嘆きと変わり、安息の日は、あざけりとなり、エルサレムの栄誉は、嘲笑の的となった。
40 かつての栄光に代わって、不名誉が満ちあふれ、エルサレムの尊厳は、悲しみに変わった。
41 王は領内の全域に、すべての人々が一つの民族となるために、
42 おのおの自分の慣習を捨てるよう、勅令を発した。そこで異邦人たちは皆、王の命令に従った。
43 また、イスラエルの多くの者たちが、進んで王の宗教を受け入れ、偶像にいけにえを献げ、安息日を汚した。
44 更に、王は使者を立て、エルサレムならびに他のユダの町々に勅書を送った。その内容は、他国人の慣習に従い、
45 聖所での焼き尽くす献げ物、いけにえ、ぶどう酒の献げ物を中止し、安息日や祝祭日を犯し、
46 聖所と聖なる人々を汚し、
47 異教の祭壇、神域、像を造り、豚や不浄な動物をいけにえとして献げ、
48 息子たちは無割礼のままにしておき、あらゆる不浄で身を汚し、自らを忌むべきものとする事、
49 要するに律法を忘れ、掟をすべて変えてしまうということであった。
50 そして王のこの命令に従わない者は死刑に処せられることになった。
51 王はこの勅書を全国に送り、民の監督官を任命し、ユダの町々に対し町ごとにいけにえを献げることを命じた。
52 多くの民が律法を捨てて彼らに追従し、この地で悪を行った。
53 こうしてイスラエル人は、あらゆる隠れ場に身を隠さなければならなくなった。
54 第四百十五年、キスレウの月の十五日には、王は祭壇の上に「憎むべき破壊者」を建てた。人々は周囲のユダの町々に異教の祭壇を築き、

- 55 家々の戸口や大路で香をたき、
- 56 律法の巻物を見つけてはこれを引き裂いて火にくべた。
- 57 契約の書を隠していることが発覚した者、律法に適った生活をしている者は、王の裁きにより処刑された。
- 58 悪人たちは毎月、町々でイスラエル人を見つけては彼らに暴行を加えた。
- 59 そして月の二十五日には主の祭壇上にしつらえた異教の祭壇でいけにえを献げた。
- 60 また、子供に割礼を受けさせた母親を王の命令で殺し、
- 61 その乳飲み子を母親の首につるし、母親の家の者たちや割礼を施した者たちをも殺した。
- 62 だがイスラエル人の多くはそれにも屈せず、断固として不浄のものを口にしなかった。
- 63 彼らは、食物によって身を汚して聖なる契約に背くよりは、死を選んで死んでいった。
- 64 こうしてイスラエルは神の大いなる激しい怒りの下に置かれたのである。